

<これまでの活動の記録 (H10年度～H11年度)>

(平成10年度)

7月9日

設立総会を「茨城県総合福祉会館」で開催。

会長に山形耕一茨城大学工学部都市システム工学科教授、
運営委員長に安原一哉同都市システム工学科教授が就任しました。
同時に、11の各グループから現在取り組んでいるテーマについて研究発表が行われました。

10月22日

広報誌「研究会だより」発行。

12月1日

講演会をひたちなか市「ワークプラザ勝田」で開催。

(1)「98那珂川水害調査報告について」

茨城大学広域水圏環境科学教育センター 三村信男教授

(2)「イタリアに見る都市景観の考え方について」

茨城大学工学部都市システム工学科 小柳武和教授

(3)「いばらきの古代人の生活と世界観について」

(財)茨城県教育財団 瓦吹堅 首席調査員兼調査班長

(平成11年度)

7月16日

総会を「ワークプラザ勝田」で開催。

五つの分科会(1.新全総を考える、2.茨城の建設遺産をさぐる、3.橋梁研究、4.植物を利用した公共空間づくり、5. GISについて)の取り組み状況について発表。

<特別講演会>

「防災・環境保全に関する地質環境調査について」

通産省 地質調査所 環境地質部 環境地質研究室 遠藤秀典 室長

9月20日

年2回発行予定の広報誌「研究会だより 第1号」発行。

10月22日

[現地研修会](#) (県内)を開催。

午前中、常陸那珂港の北埠頭造成地と、午後は、1級河川大北川河川総合開発事業「小山ダム」のダム本体工事および骨材製造工事の現場を研修しました。参加者は、68名でした。

10月27日

「コンクリート構造物の維持管理とトンネル事故防止対策」をテーマに「特別講演会」を(財)茨城県開発公社大会議室にて、約120名の方が参加して開催されました。

(1) [「土木構造物の維持管理システム」](#)

茨城大学工学部 都市システム工学科 教授 横山功一

(2) [「既存構造物の材料劣化および診断・寿命予測技術について」](#)

茨城大学工学部 都市システム工学科 教授 福沢公夫

(3) [「トンネル変状の実態と対策」](#)

京都大学大学院 工学研究科 資源工学専攻 助教授 朝倉俊弘
前・(財)鉄道総合技術研究所 技術開発事業本部
構造物技術開発事業部 主幹兼トンネル研究室長

(4) [「コンクリート補修・補強技術の現状について」](#)

11月5日

ショーボンド建設(株) 補修工学研究所 技術開発室 若杉三紀夫
分科会活動の一環として、第1回ワークショップが(財)茨城県建設技術
研修センターで開催されました。参加者は、61名で、基調講演やオピニオン
発表などが行われ、本会の副会長である茨城県土木部 穴戸薫
総括技監より開会の御挨拶がありました。

【基調講演】

「新全総と茨城づくり」 いばらき建設技術研究会会長 山形耕一先生
「水戸城と城下町水戸」 茨城県立歴史館 主席研究員 久信田喜一先生

【セッション1:新全総を考える】

司会・講評:茨城大学工学部 安原一哉先生ならびに山田稔先生
(オピニオン1) 「21世紀のフロンティアとして新水戸藩づくりの意義とその
可能性」

都市計画グループ 三上靖彦氏

(オピニオン2) 「茨城におけるネットワーク型地域構造のあり方」

・水と緑のネットワークの創出 建設コンサルタントグループ 酒井隆志氏

・森林の評価と緑の創出 造園グループ 樹木医 水庭博氏

【セッション2:茨城の建設遺産をさぐる】

司会・講評:茨城大学工学部 小柳武和先生

(オピニオン1) 「勤十郎堀について」

茨城コンサルタントグループ 鈴木信之氏

(オピニオン2) 「水戸の歴史遺産を歩く」

都市計画グループ 永長武司氏

12月1日

[【橋梁分科会班 橋梁技術先進地研修会】](#)を日帰りで行いました。

視察場所は、三重県四日市市の第2名神高速の揖斐川にかかる揖斐川橋梁の

架設現場で、世界初の工法である「PC・鋼複合6径間連続エクストラード箱桁

橋」の製作ヤードと台船による桁架設を船上から間近に見学しました。

橋長は、1,397m 支間最長は、271.5m 有効幅員は、28m(6車線)で、橋脚付近

は、軸圧縮に強いコンクリート桁、支間中央部は、鋼桁として死荷重・主桁応力を軽減することで軽量化し、経済的でスパンの長大化をはかることが可能となります。

外観は、斜張橋に類似しますが、主塔高を低くする事が出来ます。

参加者は、橋梁分科会班員を中心として23名が参加いたしました。

1月21日

地盤工学会との共催による講習会を開催しました。

(於:茨城県開発公社 大会議室 参加者 130名)

1.「地盤汚染のリスク評価と影響遮断技術に関する研究開発の動向」

建設省 土木研究所 三木博史 土質研究室長

2.「放射性廃棄物処分における地盤工学的課題と技術開発の現状」

電力中央研究所 地盤耐震部 小峯秀雄 主任研究員

3.「トルコ・台湾 地震での地盤災害と課題」

中央大学理工学部 國生剛治 教授

2月28日

緑を活用した公共空間づくり分科会勉強会を園芸療法研究家「浅野 房世」様

をお迎えしてスライド等により講演を開催。また水戸土木事務所の大森様には事例発表としてアメリカにおける「園芸による福祉、園芸療法の実態について」

の研修報告を御願いいました。

3月10日

橋梁分科会では、建設省土木研究所ならびにマリフロード協会から講師をお招きし、

第2回の新工法についての勉強会を開催しました。

そのほか随時運営委員会、総務班会議、事業班会議、広報班会議、分科会班会議を開催しての行事・運営について協議を行っています。